

*マルコ16章9~20節は、古い写本に欠けているものがあるが、内容を見ると、他の福音書とも調和がとれており、信頼できるものである。

イエスの弟子たちはイエスの復活を最初は信じなかったことが強調されている。マグダラのマリヤに主が現れた、エマオへの途上の2人の弟子に現れ、11人の弟子たちが食卓についている時に現れたが、それらの話を聞いても誰も信じなかった。主イエスは「見ずに信じるものは幸いです。」と言われたが、弟子たちは、イエスが生きておられた時に何回も、わたしは十字架にかかって死に、三日目によみがえると聞いていたにもかかわらず信じるができなかったのである。しかし、弟子たちは、イエスのよみがえられた姿を見てはじめて信じることができた。その弱さは私たちにそのまま通じる。私たちは、主イエスがよみがえられて姿は見えないが今も生きておられることを本当に信じているだろうか。生きておられるイエスに本当に出会ったかどうか問われている。

*「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15) 最初は信じるができなかった弟子たちを駄目だししたり、あきらめるのではなく、主イエスは彼らを励まして派遣したのである。福音を宣べ伝えるためである。これは私たちひとりひとりにも言われていることばである。毎回礼拝の最後の祝祷のときに、このみことばに応答して送り出されている。

*福音とは何かを主イエスは続けて教えられる。「信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じないものは罪に定められます。」(16:16) イエス・キリストは神の御子であり、救い主であることを信じる。もっと具体的には、主イエスの十字架と復活を信じるものは救われる、という事である。弟子たちは、主の命令通り出て行って至るところで福音を宣べ伝えた。「使徒の働き」にはその様子が詳しく描かれている。福音宣教には様々な危険や迫害や困難が伴うが、神は命令したものの責任として宣教に携わる者に必要な賜物を与えてくださった。そして賜物は当時とは異なっているかもしれないが、今も絶えることなく与えてくださっている。復活のイエスを信じ、そのイエスが今も生きておられることを信じて出て行こう。そうすればいつも共に働いてくださる主が助けてくださる。(マルコ16:20)